

日本語の「N₁をN₂と / にする」構文と 「N₁がN₂と / になる」構文のN₂の特徴について

杉 村 泰

1. はじめに

本稿は日本語の「N₁をN₂とする」、「N₁をN₂にする」、「N₁がN₂となる」、「N₁がN₂になる」の4つの構文のN₂の特徴について論じたものである。例(1)は中国人日本語学習者の誤用例である。これについて杉村(2017)では、「自分自身から原点とする」は「自分自身を原点とする」と言わなければいけないことを指摘している。

- (1) 日本人は集団意識が強いのに対して、中国人は自分自身から原点として問題を考えています。(中国人日本語学習者の誤用例。YUK タグ付きコーパスより)

例(1)において、学習者は「原点」という起点を表す名詞があることと、自分自身を考える起点として捉えているため、起点を表す格助詞「から」を使ったと考えられる。しかし、ここは「自分自身から～を考える」ではなく「自分自身を原点とする」という構造で文を作らなければいけない¹⁾。しかし、学習者は「N₁をN₂とする」構文に「何かを基盤とする」という意味が備わっていることを身に付けていなかったと思われる。

以上のことをきっかけに、本稿では「N₁をN₂とする」構文に「N₁を基準とする」という意味が備わっていることを指摘する。さらに「N₁をN₂にする」構文、「N₁がN₂となる」構文、「N₁がN₂になる」構文についても考察し、これらの構文の意味の違いを明らかにする。

2. 先行研究

森田(1990)は例(2)を挙げて、「N₁をN₂とする」構文と「N₁がN₂となる」構文について説明している。

(1)

(2) 教育を天職	と	考える	〈判断の内容〉	(森田1990: 223より)
馬鈴薯を主食		する	〈役割の名目〉	
心配が事実		なる	〈発展変形の名目〉	
雨が雪		変わった	〈 〃 〉	

森田 (1990) は、「彼を父と思う」の場合、彼は事実は父ではない。それを父として考えるという仮想的意識である。「AヲBト～する」においてAはBと本来は無関係である。それを話し手がA=Bと勝手に考えるところに～トの働きがある。このような～トの仮想的判断が〈名目〉の用法へと発展する」(p. 224) と述べている。

その上で「～トスル」と「～ニスル」の違いについて例 (3a) と例 (3b) を比較して、例 (3a) については「離れの家の使用法として、物置に用いるというのである。離れは本来物置ではない。その離れが物置の役を果たすわけである。離れの転用である」(p. 224) と説明し、例 (3b) については「転用ではない。改造である。～ニスルは「～に変える / ～に直す / ～に改造する」などの言い換えが可能だが、～トでは「～ト直す」のような言い方ができない」(p. 224) と説明している。

- (3) a. 離れを物置とする。
 b. 離れを物置にする。 (いずれも森田1990: 224より)

また、森田 (1990) は例 (4) や例 (5) を挙げて、「～トナル」と「～ニナル」の違いについて論じている。例 (4) の「～トナル」については、「〈発展変形の結果〉を表すのに用いられる」(p. 225) として、「それ自体が他のものにとって代わったのではない。以前の状態が発展して別の状態・事柄へと変形したに過ぎない。その源を認め、それ自体は以後も変わらず続けているのだが、ただ表向きの状態が形を変えた意識である」(p. 225) と説明し、例 (5) の「～ニナル」については「他への交換・交替・変更、あるいは新規に決定など、それ以前の状態の否定を前提とした新しい事態の誕生を表すのである」(p. 225) と説明している。

- (4) a. 私生活が小説となるなんていい商売だね。
 b. 災い転じて福となる。
 c. 桑田変じて蒼海となる。 (いずれも森田1990: 225より)

- (5) a. 着物が米になった。(物々交換)
 b. 金になる商売。
 c. 今度、社長は田中氏になりました。

- d. 信号が青になってから横断しなさい。
- e. 試験は火曜日になった。 (いずれも森田1990: 225より)

以上の森田(1990)の説明を本稿なりに整理すると次のようになる。

- 「AをBとする」…本来別物であるAとBを仮想的にA=Bと見なすことを表す(転用)
- 「AをBにする」…元のAを別のBに変えることを表す(改造)
- 「AがBとなる」…以前の状態Aが状態Bへと発展することを表す(発展的变化)
- 「AがBになる」…以前の状態Aが別の状態Bに変わることを表す(再生的変化)

本稿でもこれらの構文は基本的にこのような意味を持っていると考える。その上で、各構文の特徴をより詳しく考察する。

考察に当たっては村木(1991)の記述を参考にする。村木(1991: 299-324)は「これを機会に」など「N₁をN₂にして」から形式的な動詞「して」が脱落した「N₁をN₂に」の特徴について論じ、その中で「N₁をN₂に」のN₂には次のような語が置かれることを指摘している。

1. 状況成分

- 〈時間〉 機会、きっかけ、しお、前、目前、境、最後、……
- 〈空間〉 前、背景、中心、舞台、本拠(地)、とりで、会場、……
- 〈限界・焦点〉 最高、頂点、重点、主眼、主張、……
- 〈基準・根拠〉 基準、基本、軸、もと、よりどころ、たより、手がかり……
- 〈理由〉 理由、口実、名目、……
- 〈目的〉 目的、目標、ターゲット、目途、めあて、……

2. 付帯状況

- 〈資格〉 母、父、助手、職業、家庭教師、人質、主人公、ゲスト探偵、手みやげ、タテ糸、ヨコ糸
- 〈所持〉 手、胸、肩、背、懐
- 〈排除〉 抜き、よそ、尻目

3. 補語成分

- 〈手段〉 武器、エサ、さかな、タネ、助け、素材、テキスト、……
- 〈相手〉 相手、対象
- 〈内容〉 テーマ、スローガン、キャッチフレーズ、建前、旗印、看板、公約数、……

4. その他 幸い

以下、本稿では村木(1991)の分類を参考にして「 N_1 を N_2 とする」、「 N_1 を N_2 にする」、「 N_1 が N_2 となる」、「 N_1 が N_2 になる」の4つの構文の N_2 の特徴を明らかにする。

3. コーパス調査の概要

本稿では「現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)」を使って「 N_1 を N_2 とする」、「 N_1 を N_2 にする」、「 N_1 が N_2 となる」、「 N_1 が N_2 になる」の4つの構文の用例を抽出し、 N_2 にいかなる名詞が来るかを調査した。検索の対象としたのは全データ(検索対象語数:124,624,010語)で、検索ソフト「中納言」の短単位検索を使い、検索欄に以下のように入力して用例を抽出した。

- ・「 N_1 を N_2 とする」、「 N_1 を N_2 にする」
 - 前方共起1(キーから2語) 品詞の大分類が〔名詞〕
 - 前方共起1(キーから1語) 語彙素読みが〔ヲ〕
 - キー(---) 品詞の大分類が〔名詞〕
 - 後方共起1(キーから1語) 語彙素読みが〔ト〕または〔ニ〕
 - 後方共起2(キーから2語) 語彙素読みが〔スル〕

- ・「 N_1 が N_2 となる」、「 N_1 が N_2 になる」
 - 前方共起1(キーから2語) 品詞の大分類が〔名詞〕
 - 前方共起1(キーから1語) 語彙素読みが〔ガ〕
 - キー(---) 品詞の大分類が〔名詞〕
 - 後方共起1(キーから1語) 語彙素読みが〔ト〕または〔ニ〕
 - 後方共起2(キーから2語) 語彙素読みが〔ナル〕

4. 4つの構文の N_2 の特徴

本節では「 N_1 を N_2 とする」、「 N_1 を N_2 にする」、「 N_1 が N_2 となる」、「 N_1 が N_2 になる」の順に4つの構文の N_2 の特徴について論じる。

4.1. 「 N_1 を N_2 とする」構文の N_2 の特徴

まず、「 N_1 を N_2 とする」構文の N_2 に来る名詞から見る。BCCWJから抽出した N_2 の出現数上位60位までを表1に示す。

ここで表1に基づいて「 N_1 を N_2 とする」の N_2 の特徴を見る。先の村木(1991)では〈時

表1 「N₁をN₂とする」のN₂に来る名詞の出現数上位60位まで

延べ語数25,307語、異なり語数2,269語

順	N ₂	出現数	順	N ₂	出現数	順	N ₂	出現数
1	目的	3,113	21	条件	146	41	起点	63
2	中心	2,947	22	限度	133		特徴	
3	必要	2,353	23	単位	132	43	業	62
4	はじめ	2,038	24	軸	128		中核	
5	対象	1,193	25	基調	127	45	無効	57
6	前提	843	26	旨	117		目途	
7	基本	359	27	原料	104		理想	
8	背景	342	28	頂点	98	48	主眼	55
9	主	313	29	ベース	95	49	きっかけ	54
10	理由	297	30	テーマ	94	50	ねらい	53
11	基礎	281	31	媒介	88		妻	
12	目標	275	32	原因	82	52	要件	51
13	百	263		専門		53	議題	50
14	契機	249	34	拠点	80	54	よし	48
15	主体	240	35	核	72	55	境	47
16	原則	206		問題			根拠	
17	基準	203	37	ピーク	70		主題	
18	内容	184		舞台		58	長	43
19	基盤	161	39	柱	67	59	一体	41
20	得意	158	40	モデル	66	60	基軸、上限、代表	40

間)〈空間〉〈限界・焦点〉〈基準・根拠〉……のように分類されていたが、「きっかけ」は時間とも原因とも捉えられるし、「背景」は空間とも基準とも捉えられるというように、分類に迷うことが多い。そのため、本稿では〈時間〉〈空間〉などの分類はせず、表1の62語を次のように〈基準〉〈原因〉〈目標〉〈対象〉〈内容〉〈原料〉〈統合〉〈結果〉の8つに分類した。

〈基準〉 基準、基本、基礎、基盤、基調、基軸、ベース、原則、必要、要件、条件、根拠、拠点、中心、中核、核、柱、軸、単位、百、主、主体、前提、背景、舞台、モデル、起点、限度、上限、ピーク、頂点、はじめ、代表、長、境、媒介

〈原因〉 原因、理由、契機、きっかけ

〈目標〉 目標、目的、ねらい、目途、理想

〈対象〉 対象

〈内容〉 内容、テーマ、議題、主題、主眼、問題、旨

- 〈原料〉 原料
 〈統合〉 一体
 〈結果〉 無効、特徴、得意、専門、業、妻、よし

このうち〈基準〉は例(6)–(8)の「基準」「中心」「百」のように何らかの基準を表すものである。例(9)–(11)の「ピーク」「代表」「媒介」は、上の3語のように典型的に基準の意味を表すものではないが、「N₁をN₂とする」構文に使われることにより、「45～49歳層を被服費低下の基準点(ピーク)と捉える」、「ブイヤベースをカシスの白に合う魚料理の典型例(代表)として捉える」、「人間の生活を科学と文学を関連させる起点(媒介)として捉える」というように、基準の意味を帯びたものとなっている。

- (6) 保育園、幼稚園の入園手続きなどすべてが満年齢を基準としている。(吉行淳之介・黒井千次『日本の名随筆』)
 (7) これが中国を中心とした東アジアの冊封体制でした。(姜在彦『朝鮮の歴史と文化』)
 (8) 基準日の時価総額を百として時価総額を計算。(Yahoo!知恵袋)
 (9) また被服費の割合は四十五～四十九歳層をピークとして低下していく。(労働省『労働白書』昭和55年版)
 (10) カシスの白は、ブイヤベースを代表とする魚料理に合う。(地球の歩き方編集室『南仏プロヴァンスとコート・ダジュール & モナコ』)
 (11) 科学も文学も人間の生活を媒介として関連連している。(村山俊太郎『村山俊太郎生活綴方と教師の仕事』)

「ピーク」や「はじめ」などの例外を除き、〈基準〉に属するものの多くは「とする」を「にする」に変えても成り立つが、「とする」を使うと話し手がN₁をN₂と見なすことに焦点が当たり、「にする」を使うと元のN₁を別のN₂に変えることに焦点が当たるという違いがある。

〈原因〉は例(12)–(13)の「原因」や「きっかけ」のように事態が生じる要因を表すものである。これも事態成立の基になるものであるため、基準の一種として捉えられる。

- (12) その一方で、パチンコを原因とする事件やトラブルも、後が絶えません。(ヨーコ・ミヤザキ『お金持ちになれるヒント!』)
 (13) また、地震をきっかけとしてがけ崩れなどが起こることもあるので注意しましょう。(茨城県取手市『広報とりで』2008年11号)

〈目標〉は例(14)–(15)の「目標」や「理想」のように事態成立の指針を表すものである。こ

これらの語自体は着点のイメージが強く、あまり基準のイメージが強くないが、「N₁をN₂とする」構文に使われることにより、N₂が行動の原動力や行動原理を表し、基準の意味を帯びたものとなる。

(14) その結果、弁護士になりたいと大学進学を目標とした。(成田すみれ『障害者福祉とソーシャルワーク』)

(15) カタリ派は、徹底的な禁欲主義を理想とした。(久野昭『オカルティズムへの招待』)

〈対象〉は例(16)–(17)の「対象」のように事態の向かう先を表すものである。これも着点のイメージが強いが、「N₁をN₂とする」構文に使われることにより、「誰に相談するのか」、「何を研究するのか」といった事態の指針を表し、基準の意味を帯びたものとなる。

(16) 建築指導課では、毎月1回、市民を対象とした耐震相談窓口を開設します。(千葉県市川市『広報いちかわ』2008年14号)

(17) 言語学は個々の言語を対象として、その音声、文法、意味などを研究することはもちろんであるが(友田英津子・竹森佳史『共生の基礎知識』)

〈内容〉は例(18)–(19)の「内容」や「問題」のように思考の枠組みを表すものである。これも思考のベースを築くものであるため、基準の一種として捉えられる。

(18) 我が国とイスラエルは、九十三年3月8日、二重課税の回避を内容とする租税条約に調印した。(通商産業省『通商白書』平成5年版(各論))

(19) 殺人文化は事態を問題とし、自殺文化は気持ちを問題とする。(Yahoo! ブログ)

以上、〈基準〉〈原因〉〈目標〉〈対象〉〈内容〉の5つに分類したが、いずれも広い意味で〈基準〉を表すものとしてまとめられる。

また、〈原料〉は例(20)の「原料」のように製品の本になる素材を表すものである。これも製品の基礎となるものであるため、〈基準〉に類似した意味を持っている。

(20) ソフト粘土は樹脂を原料とする超軽量の粘土。(宮井和子『おしゃれ工房』2005年2月号)

一方、〈統合〉は例(21)の「一体」のように複数のものを一つに合わせることを表すものである。この場合のN₂は結果のイメージが強く、基準の意味は感じにくい。ただし、「N₁をN₂

とする」構文に使われることによって、基準の意味を帯びてくる。例えば、例(21)では都市と農山漁村の合わさったものを圏域整備の基盤として位置付けており、これも基準の一種として捉えられる。

- (21) 都市と農山漁村を一体とした圏域整備を進めてきた。(建設省『建設白書』昭和61年版)

〈結果〉は例(22)–(28)の「有効→無効」、「特徴無し→特徴」、「不得意→得意」、「非専門→専門」、「非生業→業」、「他人→妻」、「未評価→よ(良)し(と評価する)」のように変化の結果を表すものである。これも結果のイメージが強いが、「 N_1 を N_2 とする」構文に使われることによって、基準の意味を帯びてくる。例えば、例(23)では「この変異株の代表的な特徴は白化と矮化である」ということを表し、例(25)では「この科の主たる専門は脳の治療である」ということを表し、例(27)では「彼の妻の座に座る中心人物はマーゴット夫人である」ということを表している。また、例(28)の「よしとする」や「是(ぜ)とする」(74位)は慣用表現で、 N_1 を「よいもの」「是となるもの」として認定するという意味を表す。この場合、「よし」や「是」によし悪しや善悪の基準の意味が伴っているため、〈基準〉に分類することも可能である。なお、例(22)–(27)は「とする」を「にする」に置き換えられるが、例(28)の「よしとする」や「是とする」はこの形で固定化しており、「*よしにする」「*是にする」とは言えない。

- (22) 諸般の事情を考慮して選挙を無効としない旨の判決をする余地はない。(『国会会議録』第103回国会)
- (23) この変異株は、白化と矮化を特徴とする。(矢崎一史『ABC蛋白質』)
- (24) 映画とテレビが好きなこの子は、理科と英語を得意としていた。(ユキ・サマルカンド『黒豹たちの教室』)
- (25) 脳の治療を専門とする科に所属していた。(阿部知子『操られる生と死』)
- (26) 住宅の建築を業として行う建築主(『エネルギーの使用の合理化に関する法律』)
- (27) これをふり捨ててマーゴット夫人を妻とした。(鮎川哲也『鮎川哲也名作選』)
- (28) どうも日本人は遊ぶことを罪悪と考え、勤勉をよしとして生きてき過ぎた感がある。(荒木左地男『おじさんだつて、アジアに行きたい』)

以上で見たように、「 N_1 を N_2 とする」構文は N_2 が〈基準〉〈原因〉〈目標〉〈対象〉〈内容〉の場合のもとより、〈原料〉〈統合〉〈結果〉の場合にも基準の意味を帯びている。このことから、「 N_1 を N_2 とする」構文には広い意味で「 N_1 を何らかの基準として見立てる」という構文

的意味が備わっていると考えられる。これに対し、次の「N₁をN₂にする」構文は「N₁を別の何かからN₂に変える」という構文的意味を表す。

4.2. 「N₁をN₂にする」構文のN₂の特徴

次に、「N₁をN₂にする」構文のN₂に来る名詞について見る。BCCWJから抽出したN₂の出現数上位60位までを表2に示す。

表2 「N₁をN₂にする」のN₂に来る名詞の出現数上位60位まで

延べ語数22,486語、異なり語数2,443語

順	N ₂	出現数	順	N ₂	出現数	順	N ₂	出現数
1	手	1,269	21	背景	192		話題	
2	口	984	22	舞台	186	42	オン	84
3	気	965	23	問題	181	43	もの	81
4	前	649	24	楽しみ	175	44	鶴呑み	74
5	参考	613	25	下	159		台無し	73
6	中心	594	26	一(いつ)	157	46	剥き出し	
7	犠牲	572	27	基準	152	47	境	72
8	耳	471	28	題材	140	48	軸	69
9	共(とも)	805	29	馬鹿	130		基調	67
10	目	425	30	基	128	50	無駄	
11	異(こと)	368	31	上	122	51	留守	66
12	前提	350		目標		浮き彫り		
13	もと	334	33	目前	116	53	オフ	64
14	対象	305	34	目的	114		ターゲット	
15	後(あと)	437	35	モチーフ	110		頼り	
16	相手	289		抜き		56	基本	63
17	目の当たり	263	37	一緒	96	57	当て	62
18	背	237	38	基礎	93	59	粉(こ、こな)	59
19	テーマ	227		空(から)		59	心待ち	58
20	ベース	208	40	モデル	88	60	例	56

先ほどと同じように表2の60語を分類すると、次の〈基準〉〈目標〉〈対象〉〈内容〉〈統合〉〈捕捉〉〈結果〉〈その他〉の8つに分類できる。先の「N₁をN₂とする」に似ているが、上位60位までに〈原因〉と〈原料〉が入っていない(それ以下には入っている)一方で、〈捕捉〉と〈その他〉が入っている点で違いがある。

〈基準〉 基準、基本、基礎、基調、基、もと、ベース、中心、軸、前提、背景、舞台、モ

デル、参考、例、境

- 〈目標〉 目標、目的、ターゲット
 〈対象〉 対象、相手
 〈内容〉 テーマ、題材、モチーフ、話題、問題
 〈統合〉 一、共、一緒
 〈捕捉〉 手、目、耳、口、目の当たり
 〈結果〉 上、下、オン、オフ、異、留守、抜き、空、台無し、剥き出し、無駄、浮き彫り、犠牲、粉（全59例のうち「こ」が43例、「こな」が16例）
 〈その他〉 気、楽しみ、心待ち、頼り、当て、目前、もの、鵜呑み、馬鹿、前、背、後

〈基準〉〈目標〉〈対象〉〈内容〉〈統合〉は先の「 N_1 を N_2 とする」と同じなので説明を省略する。〈捕捉〉は例(29)の「手にする」の他、「目にする」、「耳にする」、「口にする」、「目の当たりにする」のように物、映像、音声、飲食物に主体が触れてそれを取り入れることを表す。この場合、「にする」を「とする」に置き換えることはできない。

(29) 夫婦は地上げに乗じて店を売り、大金を手にした。(杉山隆男『日本封印』)

〈結果〉は例(30)–(33)の「下→上」「同→異」「潜在→浮き彫り」「身→粉」のように「A→B」という変化の結果を表すものである。ただし、先の「 N_1 を N_2 とする」の場合と違い、上位に来るものは「とする」に置き換えられないものが多い。このうち「粉にする」は「米を粉(こな)にする」のような例の他、「身を粉(こ)にする」の形でよく使われている。

(30) 青いトマトはへたの部分を上にして外に出しておきます。(沖幸子『ドイツ流シンプル料理学』)

(31) 日光には波長を異にする各種光線が含まれている。(日野原重明他『解剖生理学』)

(32) 男性側の結婚に対する意識を浮き彫りにする。(『琉球新報』2002年6月3日朝刊)

(33) 生活のために、身を粉にして働く母親。(岡田尊司『悲しみの子どもたち—罪と病を背負って』)

〈その他〉は例(34)–(37)のようなもので、〈結果〉のイメージがあまり強くないものである。ただし、これらも「気にしていない→気にする」、「ものにしていない→ものにする」、「引退まで時間がある→目前になる」、「病院の中にいる→病院の外に出て病院が後ろになる、転じて立ち去る」のように広い意味で〈結果〉を表すと考えられる。このうち「気」、「楽しみ」、「心待ち」、「頼り」、「当て」、「目前」、「もの」は対応する自動詞形の「になる」があるが、「鵜呑み」、

「馬鹿」、「前」、「背」、「後」は対応する「になる」の形がない。

- (34) 母はコレステロールを気にして、油物を極端に嫌います。(Yahoo! 知恵袋)
 (35) たったひとりでスクープをものにしてきた。(野村旗守『北朝鮮「対日潜入工作」』)
 (36) 引退を前にして、もう一度だけ唱ってみたのかもしれない。(矢野晶子『カルメンお美』)
 (37) 真一は、ある疑惑を抱いて、横田医院を後にした。(斎藤栄『古都殺人事件』)

以上で見たように、「N₁をN₂にする」構文は「N₁を別の何かからN₂に変える」という構文的意味を表す。

4.3. 「N₁がN₂となる」構文のN₂の特徴

次に、「N₁がN₂となる」構文のN₂に来る名詞について見る。BCCWJから抽出したN₂の出現数上位60位までを表3に示す。

これまでと同様に表3の68語を分類すると、次の〈基準〉〈原因〉〈目標〉〈対象〉〈内容〉〈統合〉〈結果〉の7つに分類できる。形式的には「N₁がN₂となる」は「N₁をN₂とする」の自動詞形であり、N₂も先の「N₁をN₂とする」の場合と似ているが、上位60位までに〈原料〉が入っていない点で違いがある。

- | | |
|------|--|
| 〈基準〉 | 基準、基本、基礎、基盤、標準、ベース、原則、義務、必須、必要、要件、条件、カギ、決め手、目安、焦点、ポイント、中心、中核、主、主体、主流、メイン、前提、背景、舞台、母体、ピーク |
| 〈原因〉 | 原因、要因、発端、契機、きっかけ、引き金、刺激 |
| 〈目標〉 | 目標、目的 |
| 〈対象〉 | 対象 |
| 〈内容〉 | 課題、話題、問題、争点 |
| 〈統合〉 | 一体、一丸、一団 |
| 〈結果〉 | 無効、特徴、変更、現実、優勢、困難、不能減額、適用、満開、急務、最後、主役、講師、スポンサー、肉体、犠牲、壁、障害、最小、マイナス、ゼロ、1 |

このうち〈基準〉〈原因〉〈目標〉〈対象〉〈内容〉は先の「N₁をN₂とする」構文と同じで、「N₁がN₂となる」は「N₁をN₂とする」の自動詞形として機能している。

一方、〈統合〉は「一体とする」(他)と「一体となる」(自)は自他の対応があるが、「一丸

表3 「N₁がN₂となる」のN₂に来る名詞の出現数上位60位まで
延べ語数5,655語、異なり語1,152語

順	N ₂	出現数	順	N ₂	出現数	順	N ₂	出現数	
1	必要	1,507		優勢			最小		
2	中心	352	22	ゼロ(0)	24		争点		
3	問題	322	23	マイナス	23		1		
4	一体	244	24	原則	20		ピーク		
5	困難	171		基準		43	ベース	9	
6	主体	132	25	現実	18		壁		
7	対象	97		主役			要件		
8	原因	96	28	必須	17		一団		
9	基本	78		無効			基礎		
10	課題	77		ポイント	16	48	基盤	8	
	前提		30	犠牲			障害		
12	きっかけ	66		焦点			中核		
13	主流	55		発端			適用		
14	急務	52	34	変更	13		肉体		
15	一丸	45		減額	12		目標		
16	主	37	35	講師					
17	条件	31		特徴	11	56	カギ、義務、最後、 刺激、背景、標準、 舞台、母体、満開、 目安、要因、決め手、 メイン	7	
	話題		37	不能					
19	契機	29		目的					
20	引き金	27	40	スポンサー	10				

となる」と「一団となる」は自動詞形のみで、「*一丸とする」「*一団とする」という言い方はしない。

また、〈結果〉は「N₁をN₂とする」に比べて上位に多くの語が来る点で特徴がある。これらは「N₁をN₂とする」構文の他動詞形というよりは、次の「N₁がN₂になる」構文の硬い表現として使われている。

以上で見たように、「N₁がN₂となる」構文は広義の基準を表す場合は「N₁をN₂とする」構文の自動詞形として使われるが、そうでない場合は「N₁がN₂になる」構文の硬い表現として使われている。

4.4 「N₁がN₂になる」構文のN₂の特徴

最後に、「N₁がN₂になる」構文のN₂に来る名詞について見る。BCCWJから抽出したN₂の出現数上位60位までを表4に示す。

表4 「N₁がN₂になる」のN₂に来る名詞の出現数上位60位まで

延べ語数9,481語、異なり語数2,359語

順	N ₂	出現数	順	N ₂	出現数	順	N ₂	出現数
1	気	1,473		現実		42	ブーム	25
2	問題	377	22	マイナス	40	最大		
3	中心	263		基本		43	公	24
4	話題	153	24	中止	39	44	メイン	23
5	一緒	154	25	ポイント	38	44	楽しみ	
6	変更	108	26	もと	36	46	オン	22
7	病気	98	27	引き金	34		横	
8	主流	83		主			青	
9	セット	74	29	邪魔	33		先	
	犠牲			心配		適用		
	前提			倍	51	最後	21	
12	ゼロ (0)	73	32	ベース	30	52	ストレス	20
13	空 (から)	64		半分				
14	剥き出し	61		きっかけ				
15	一体	54	35	休み	29	56	赤	19
16	参考	52		台無し				
17	浮き彫り	49		無駄		56	解禁	
18	大人	47	38	上	28	56	主体	
19	対象	46	39	アクセント	26	60	負担	18
20	原因	41		習慣				

これまでと同様に表4の64語を分類すると、次の〈基準〉〈原因〉〈対象〉〈内容〉〈統合〉〈結果〉〈その他〉の7つに分類できる。形式的には「N₁がN₂になる」は「N₁をN₂にする」の自動詞形であり、N₂も「N₁をN₂にする」の場合と似ているが、上位60位までに〈目標〉が入っていない一方で、〈原因〉が入っている点で違いがある。

- 〈基準〉 基本、ベース、もと、中心、条件、前提、参考、ポイント、主、主体、主流、メイン
 〈原因〉 原因、きっかけ、引き金
 〈対象〉 対象
 〈内容〉 課題、話題、問題
 〈統合〉 一緒、セット、一体、束
 〈結果〉 先、上、横、オン、空、公、丸見え、剥き出し、無駄、浮き彫り、変更、現実、解禁、邪魔、習慣、ストレス、負担、病気、心配、適用、ブーム、台無し、山積

み、中止、廃止、最後、火事、大人、犠牲、赤、青、最大、倍、半分、マイナス、ゼロ

〈その他〉 気、楽しみ、休み、ご覧、アクセント

また、「N₁をN₂にする」には見られた〈捕捉〉は下位にも入っておらず、「手にする」「目にする」「耳にする」「口にする」という言い方はしても、「*手になる」「*目になる」「*耳になる」「*口になる」という言い方はできない²⁾。ただし、「目の当たりになる」はBCCWJから1件出現した。また、〈その他〉のうち「ご覧になる」は「見る」の尊敬語で、N₁は「ご覧になる」の動作主として機能するため、他の「N₁がN₂になる」とは別に扱った方がよいと思われる。

以上で見たように、「N₁がN₂になる」構文は「N₁をN₂にする」構文の自動詞形として使われているが、〈捕捉〉には使われない。

5. 4つの構文の比較

本節では①「N₁をN₂とする」と②「N₁をN₂にする」、③「N₁がN₂となる」と④「N₁がN₂になる」、①「N₁をN₂とする」と③「N₁がN₂となる」、②「N₁をN₂にする」と④「N₁がN₂になる」の順に4つの構文を比較する。

5.1. 「N₁をN₂とする」構文と「N₁をN₂にする」構文の比較

まず、同じ他動詞形の①「N₁をN₂とする」構文と②「N₁をN₂にする」構文を比較する。両者のN₂に来る名詞の出現数上位20位までを表5に示す。これを見ると、上位20位までで共通する語は広義の基準を表す「中心」「前提」「背景」の3語となっている。「とする」は1位から19位まで広義の基準を表す語が来るのに対し、「にする」は広義の基準のほか、〈捕捉〉(手、口、耳、目)、〈その他〉(気、前、後、背)、〈統合〉(共)、〈結果〉(犠牲、異)も来ている。このことから、「N₁をN₂とする」構文には「N₁を何らかの基準とする」という意味が濃く表れるのに対し、「N₁をN₂にする」構文はそうでないことが分かる。

5.2. 「N₁がN₂となる」構文と「N₁がN₂になる」構文の比較

次に、同じ自動詞形の③「N₁がN₂となる」構文と④「N₁がN₂になる」構文を比較する。両者のN₂に来る名詞の出現数上位20位までを表6に示す。これを見ると、上位20位までで共通する語は広義の基準を表す「中心」「問題」「一体」「対象」「原因」「前提」「主流」「話題」の8語となっている。自動詞形の「となる」と「になる」はいずれも上位に広義の基準、〈統合〉、〈結果〉が来る点で、他動詞形の「とする」と「にする」よりも近似している。ただし、

表5 「N₁をN₂とする」と「N₁をN₂にする」のN₂に来る名詞の出現数上位20位までの比較

「N ₁ をN ₂ とする」			「N ₁ をN ₂ にする」		
順	N ₂	出現数	順	N ₂	出現数
1	目的	3,113	1	手	1,269
2	中心	2,947	2	口	984
3	必要	2,353	3	気	965
4	はじめ	2,038	4	前	649
5	対象	1,193	5	参考	613
6	前提	843	6	中心	594
7	基本	359	7	犠牲	572
8	背景	342	8	耳	471
9	主	313	9	共(とも)	805
10	理由	297	10	目	425
11	基礎	281	11	異(こと)	368
12	目標	275	12	前提	350
13	百	263	13	もと	334
14	契機	249	14	対象	305
15	主体	240	15	後(あと)	437
16	原則	206	16	相手	289
17	基準	203	17	背	237
18	内容	184	18	テーマ	227
19	基盤	161	19	ベース	208
20	得意	158	20	背景	192

表6 「N₁がN₂となる」と「N₁がN₂になる」のN₂に来る名詞の出現数上位20位までの比較

「N ₁ がN ₂ となる」			「N ₁ がN ₂ になる」		
順	N ₂	出現数	順	N ₂	出現数
1	必要	1,507	1	気	1,473
2	中心	352	2	問題	377
3	問題	322	3	中心	263
4	一体	244	4	話題	153
5	困難	171	5	一緒	154
6	主体	132	6	変更	108
7	対象	97	7	病気	98
8	原因	96	8	主流	83
9	基本	78	9	セット	74
10	課題	77		犠牲	
	前提				
12	きっかけ	66	12	ゼロ(0)	73
13	主流	55	13	空(から)	64
14	急務	52	14	剥き出し	61
15	一丸	45	15	一体	54
16	主	37	16	参考	52
17	条件	31	17	浮き彫り	49
	話題		18	大人	47
19	契機	29	19	対象	46
20	引き金	27	20	原因、現実	41

「になる」の一位である「気になる」は「*気となる」とは言わない。

5.3. 「N₁をN₂とする」構文と「N₁がN₂となる」構文の比較

次に、同じ「N₂と」の形になる①「N₁をN₂とする」構文と③「N₁がN₂となる」構文を比較する。両者のN₂に来る名詞の出現数上位20位までを表7に示す。これを見ると、上位20位までで共通する語は広義の基準を表す「中心」「必要」「対象」「前提」「基本」「主」「契機」「主体」の8語となっている。また、「とする」は1位から19位まで広義の基準を表す語が来るのに対し、「となる」は上位に広義の基準のほか、〈統合〉(一体、一丸)や〈結果〉(困難、急務)も来ている。このことから、①「N₁をN₂とする」構文と③「N₁がN₂となる」構文は、基準を表す場合は自他の対応をするが、そうでない場合は自他の対応をしにくいことが分かる。

5.4. 「N₁をN₂にする」構文と「N₁がN₂になる」構文の比較

最後に、同じ「N₂に」の形になる②「N₁をN₂にする」構文と④「N₁がN₂になる」構文を比較する。両者のN₂に来る名詞の出現数上位20位までを表8に示す。これを見ると、上位20位までで共通する語は広義の基準を表す「気」「中心」「前提」の3語となっている。このうち「中心」と「前提」は広義の基準を表すが、「気」には基準の意味が感じられず「気にする」「気になる」という慣用的な表現として使われている。また、「にする」の上位には〈捕捉〉の「{手/口/耳/目}にする」という表現が来るが、自動詞形の「*{手/口/耳/目}になる」という言い方はない。このような例外を除けば、②「N₁をN₂にする」構文と④「N₁がN₂になる」構文は基本的に自他の対応をしているが、N₂の語数や順位は先の①「N₁をN₂とする」構文と③「N₁がN₂となる」構文ほどは対応していないようである。

表7 「N₁をN₂とする」と「N₁がN₂となる」のN₂に来る名詞の出現数上位20位までの比較

「N ₁ をN ₂ とする」			「N ₁ がN ₂ となる」		
順	N ₂	出現数	順	N ₂	出現数
1	目的	3,113	1	必要	1,507
2	中心	2,947	2	中心	352
3	必要	2,353	3	問題	322
4	はじめ	2,038	4	一体	244
5	対象	1,193	5	困難	171
6	前提	843	6	主体	132
7	基本	359	7	対象	97
8	背景	342	8	原因	96
9	主	313	9	基本	78
10	理由	297	10	課題	77
11	基礎	281		前提	
12	目標	275	12	きっかけ	66
13	百	263	13	主流	55
14	契機	249	14	急務	52
15	主体	240	15	一丸	45
16	原則	206	16	主	37
17	基準	203	17	条件	31
18	内容	184		話題	
19	基盤	161	19	契機	29
20	得意	158	20	引き金	27

表8 「N₁をN₂にする」と「N₁がN₂になる」のN₂に来る名詞の出現数上位20位までの比較

「N ₁ をN ₂ にする」			「N ₁ がN ₂ になる」		
順	N ₂	出現数	順	N ₂	出現数
1	手	1,269	1	気	1,473
2	口	984	2	問題	377
3	気	965	3	中心	263
4	前	649	4	話題	153
5	参考	613	5	一緒	154
6	中心	594	6	変更	108
7	犠牲	572	7	病気	98
8	耳	471	8	主流	83
9	共(とも)	805	9	セット	74
10	目	425		犠牲	
11	異(こと)	368		前提	
12	前提	350	12	ゼロ(0)	73
13	もと	334	13	空(から)	64
14	対象	305	14	剥き出し	61
15	後(あと)	437	15	一体	54
16	相手	289	16	参考	52
17	背	237	17	浮き彫り	49
18	テーマ	227	18	大人	47
19	ベース	208	19	対象	46
20	背景	192	20	原因、現実	41

6. まとめ

本稿は日本語コーパス(BCCWJ)を利用して、日本語の「N₁をN₂とする」、「N₁をN₂にする」、「N₁がN₂となる」、「N₁がN₂になる」の4つの構文のN₂の特徴について論じたものである。その結果、各構文のN₂には次の意味組成が来やすいことを明らかにした。

表9 4つの構文におけるN₂の意味の比較(出現数上位60位まで)

① N ₁ をN ₂ とする	基準	原因	目標	対象	内容	原料	統合	—	結果	—
② N ₁ をN ₂ にする	基準	—	目標	対象	内容	—	統合	捕捉	結果	その他
③ N ₁ がN ₂ となる	基準	原因	目標	対象	内容	—	統合	—	結果	—
④ N ₁ がN ₂ になる	基準	原因	—	対象	内容	—	統合	—	結果	その他

そのうえで、①「N₁をN₂とする」はほとんどの場合に②「N₁をN₂にする」に置き換えることができるのに対し、②「N₁をN₂にする」はN₂が〈基準〉〈目標〉〈対象〉〈内容〉のように広義の基準を表す場合には①「N₁をN₂とする」に置き換えやすいが、それ以外の場合は置き換えにくいことを指摘した。

さらに、①「N₁をN₂とする」と③「N₁がN₂となる」は自他の対応をするが、N₂が〈基準〉〈目標〉〈対象〉〈内容〉のように広義の基準を表す場合にそれが量的に顕著に表れることを示した。

また、②「N₁をN₂にする」と④「N₁がN₂になる」も大方自他の対応をするが、N₂が〈捕捉〉の「手にする」等や〈その他〉の一部の「馬鹿にする」等は「なる」の形にならず、〈結果〉の一部の「ストレスにする」や「適用になる」等は「する」の形にならないことを指摘した。

その上でこれら4つの構文の意味を整理すると次のようになる。

- ①「N₁をN₂とする」構文：N₁を何らかの基準N₂として見立てる
- ②「N₁をN₂にする」構文：N₁を別の何かからN₂に変える
- ③「N₁がN₂となる」構文：N₁が何らかの基準N₂として見立てられる(①の自動詞形)
N₁が別の何かからN₂に変わる(④の硬い表現)
- ④「N₁がN₂になる」構文：N₁が別の何かからN₂に変わる(②の自動詞形)
ただし〈捕捉〉には使われない。

注

- 1) BCCWJを検索すると「N₁からN₂として」の用例が235件出現したが、N₂が「原点/原則/基準……」の意味となる用例は1件も出現しなかった。

2) 「前足が手になる」「原口が口になる」という例は出現したが、これは〈結果〉の表現である。

引用文献

- 杉村泰 (2017) 「日本人は集団意識が強いのに対して、中国人は自分自身から原点として問題を考えています。」 錯在哪里?」于康・林璋(主編)(日語偏誤与日語教学研究叢書 第1卷)『日語格助詞的偏誤研究(上)』, pp. 163-165. 浙江工商大学出版社
- 村木新次郎 (1991) 『日本語動詞の諸相』ひつじ書房
- 森田良行 (1990) 『日本語学と日本語教育』凡人社

キーワード：格助詞、「に」、「と」、「する」、「なる」

摘要

日語「N₁をN₂と/にする」句式与「N₁がN₂と/になる」句式N 的特征

杉村 泰

本論文对日語①「N₁をN₂とする」、②「N₁をN₂にする」、③「N₁がN₂となる」、④「N₁がN₂になる」四种句式N₂的语义特征进行探讨, 结果显示其语义构成具有以下倾向。

① N ₁ をN ₂ とする	基准	原因	目标	对象	内容	原料	综合	—	结果	—
② N ₁ をN ₂ にする	基准	—	目标	对象	内容	—	综合	捕捉	结果	其他
③ N ₁ がN ₂ となる	基准	原因	目标	对象	内容	—	综合	—	结果	—
④ N ₁ がN ₂ になる	基准	原因	—	对象	内容	—	综合	—	结果	其他

本論文还指出, ①「N₁をN₂とする」句式在多数情况下可以替换成②「N₁をN₂にする」句式, 但②「N₁をN₂にする」句式只有在表达“基准”“目标”“对象”“内容”等广义上表示基准的意思时才可以替换成①「N₁をN₂とする」句式, 其他情况下难以替换。

另, ①「N₁をN₂とする」句式与③「N₁がN₂となる」句式为一组自他对应的句式, 当N₂为“基准”“目标”“对象”“内容”等广义上表示基准的意思时, 其语料数量较多, 与其他情况形成鲜明对比。

②「N₁をN₂にする」与④「N₁がN₂になる」也基本上为一组自他对应的句式, 当N₂为表“捕捉”如「手にする」、表“其他”如「馬鹿にする」等情况时, 无法使用「なる」。而一部分表“结果”如「ストレスにする」「適用になる」等情况时, 则无法使用「する」。

关键词: 格助词, “に”, “と”, “する”, “なる”